

北海道の家畜改良の現状

令和7年9月

北海道農政部生産振興局畜産振興課

目次

1 乳牛改良の現状

(1) 1頭当たりの生乳生産量（1乳期）の推移	1
(2) 初産月齢の推移	2
(3) 分娩間隔の推移	3
(4) 更新産次の推移	4

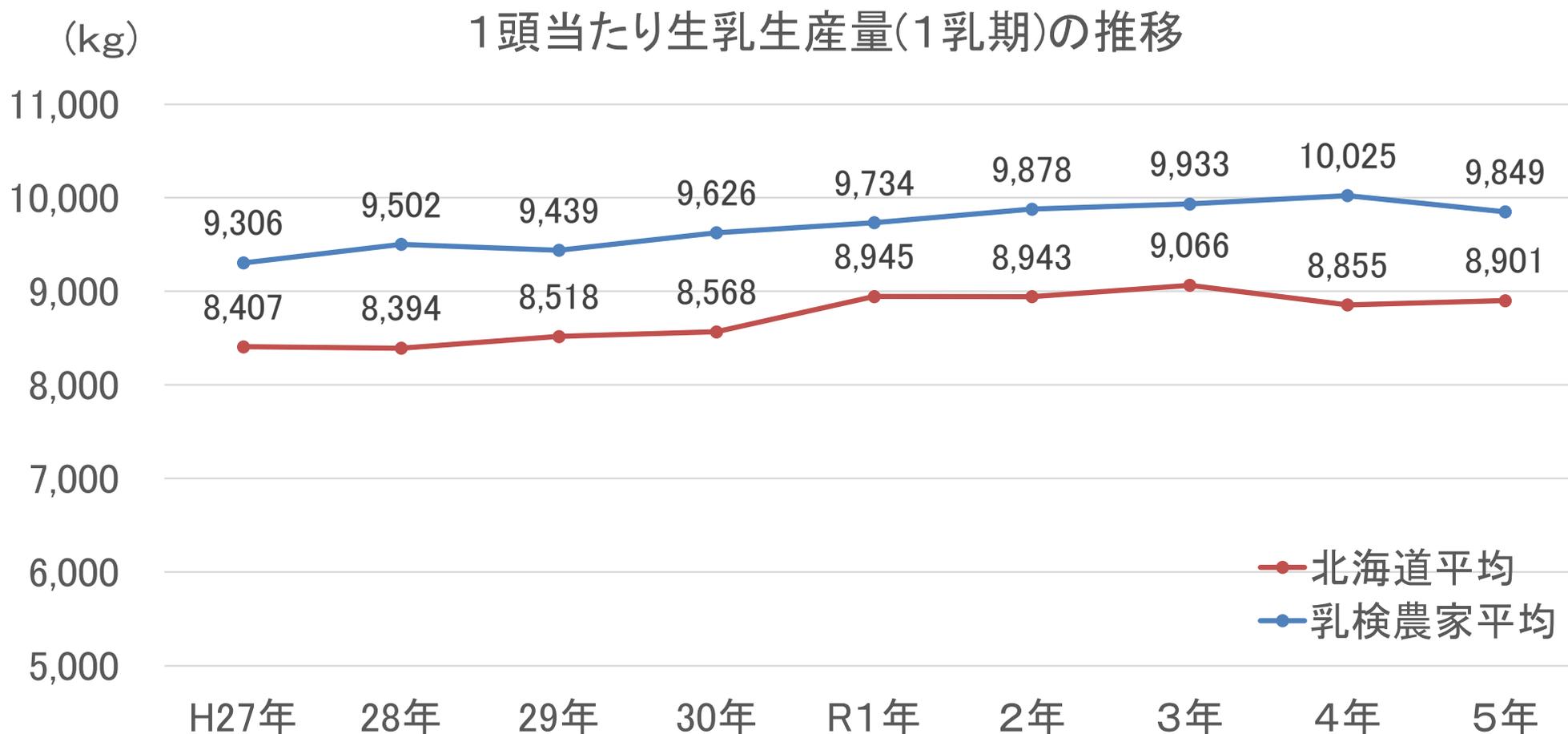
2 肉用牛改良の現状

(1) 黒毛和種に係る出荷月齢の推移	5
(2) 乳用種に係る出荷月齢の推移	6
(3) 交雑種に係る出荷月齢の推移	7
(4) 黒毛和種に係る初産月齢の推移	8
(5) 黒毛和種に係る分娩間隔の推移	9

1 乳牛改良の現状

(1) 1頭当たりの生乳生産量(1乳期)の推移

○ 1頭当たりの生乳生産量(1乳期)は、牛群検定加入農家では9,849kgと北海道平均(8,901kg)を上回って推移。



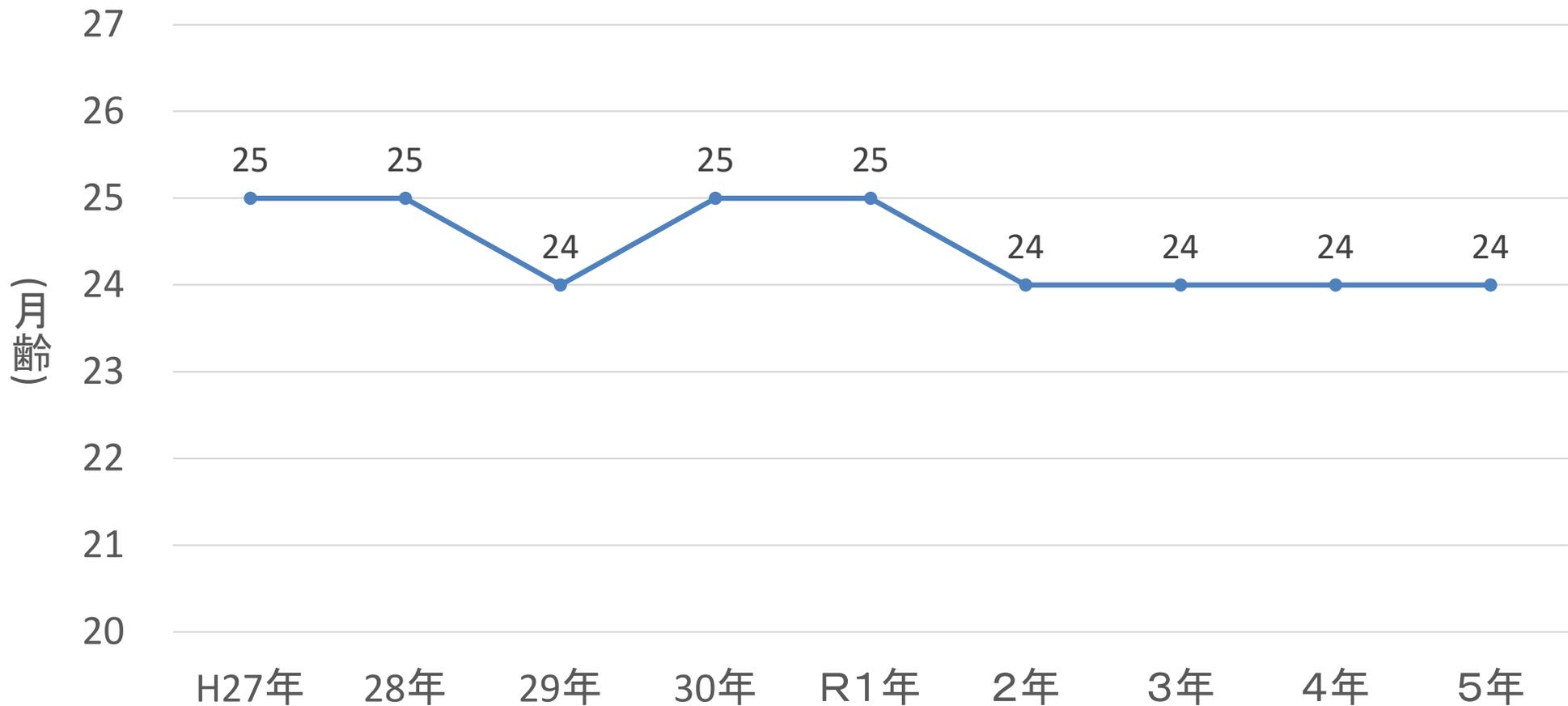
資料: 乳検農家平均乳量は(公社)北海道酪農検定検査協会年間検定成績、
北海道平均は農林水産省「畜産統計」・「牛乳乳製品統計」より推計

1 乳牛改良の現状

(2) 初産月齢の推移

○ 平均初産月齢は、24～25か月齢で推移しており、令和2年以降は24か月齢で推移。

初産月齢の推移



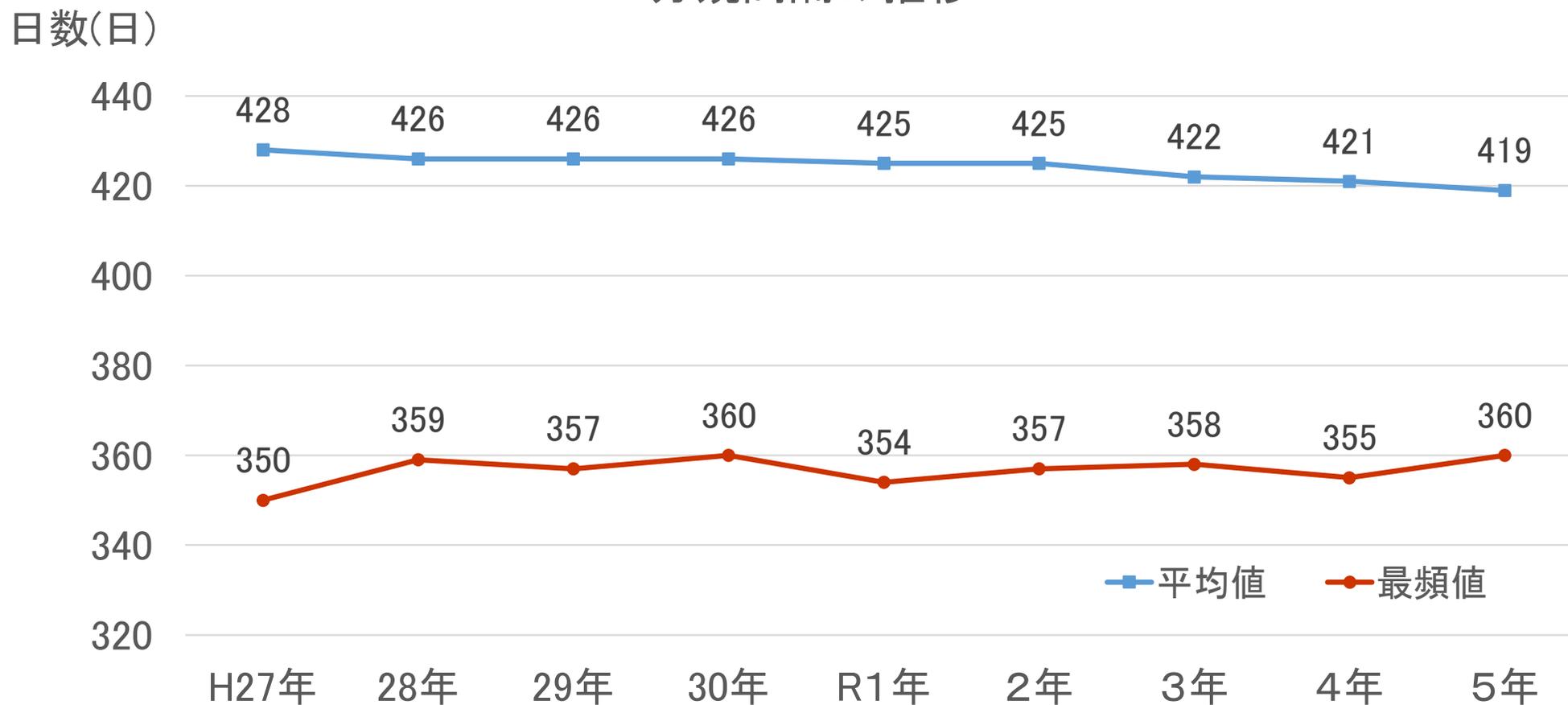
資料: 平均初産月齢は北酪検調べ。

1 乳牛改良の現状

(3) 分娩間隔の推移

○ 分娩間隔の最頻値は360日程度で推移しており、適切な分娩サイクルになっている一方、長期不受胎牛も多くいることから、平均値は概ね420日で推移。

分娩間隔の推移

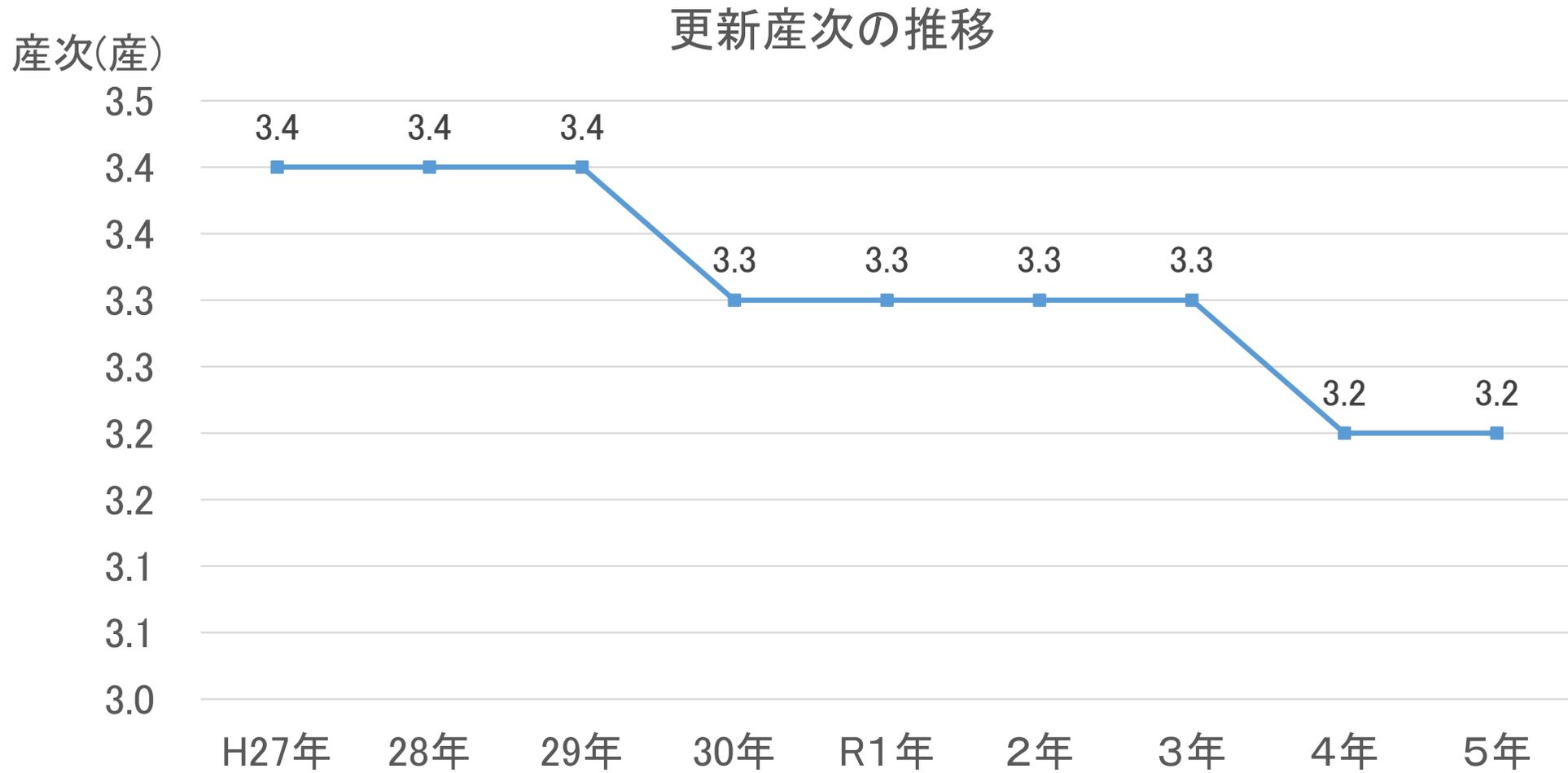


資料:分娩間隔の平均値は北酪検調べ。分娩間隔の最頻値は家畜改良事業団調べ。

1 乳牛改良の現状

(4) 更新産次の推移

○ 乳牛の平均更新産次は短縮傾向で推移しており、令和5年は3.2産まで短縮。

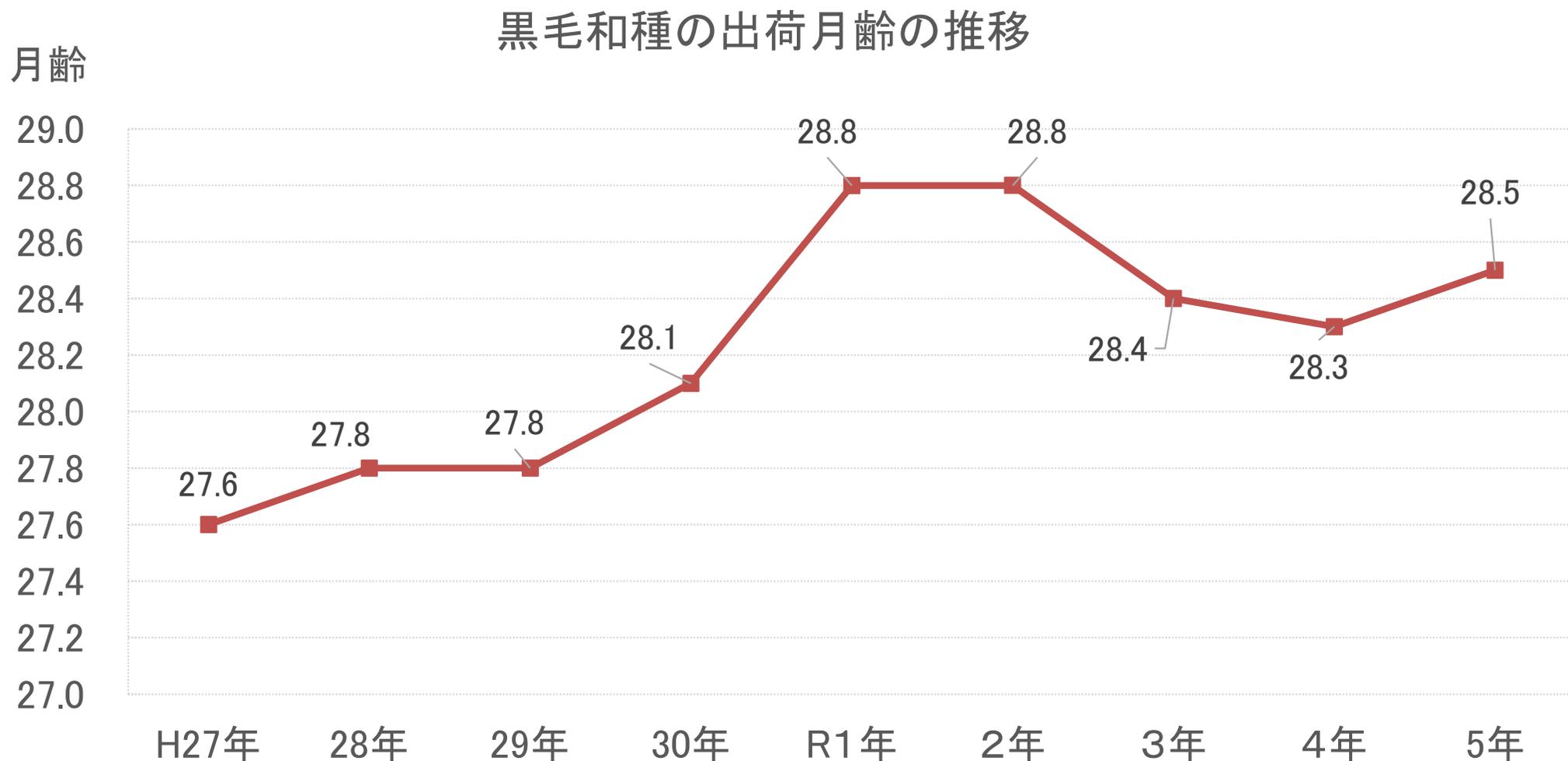


資料: 平均更新産次は北酪検調べ。

2 肉用牛改良の現状

(1) 黒毛和種の出荷月齢の推移

○ 黒毛和種の出荷月齢は、平成27年以降徐々に延長し、30年以降は28か月齢を上回って推移。

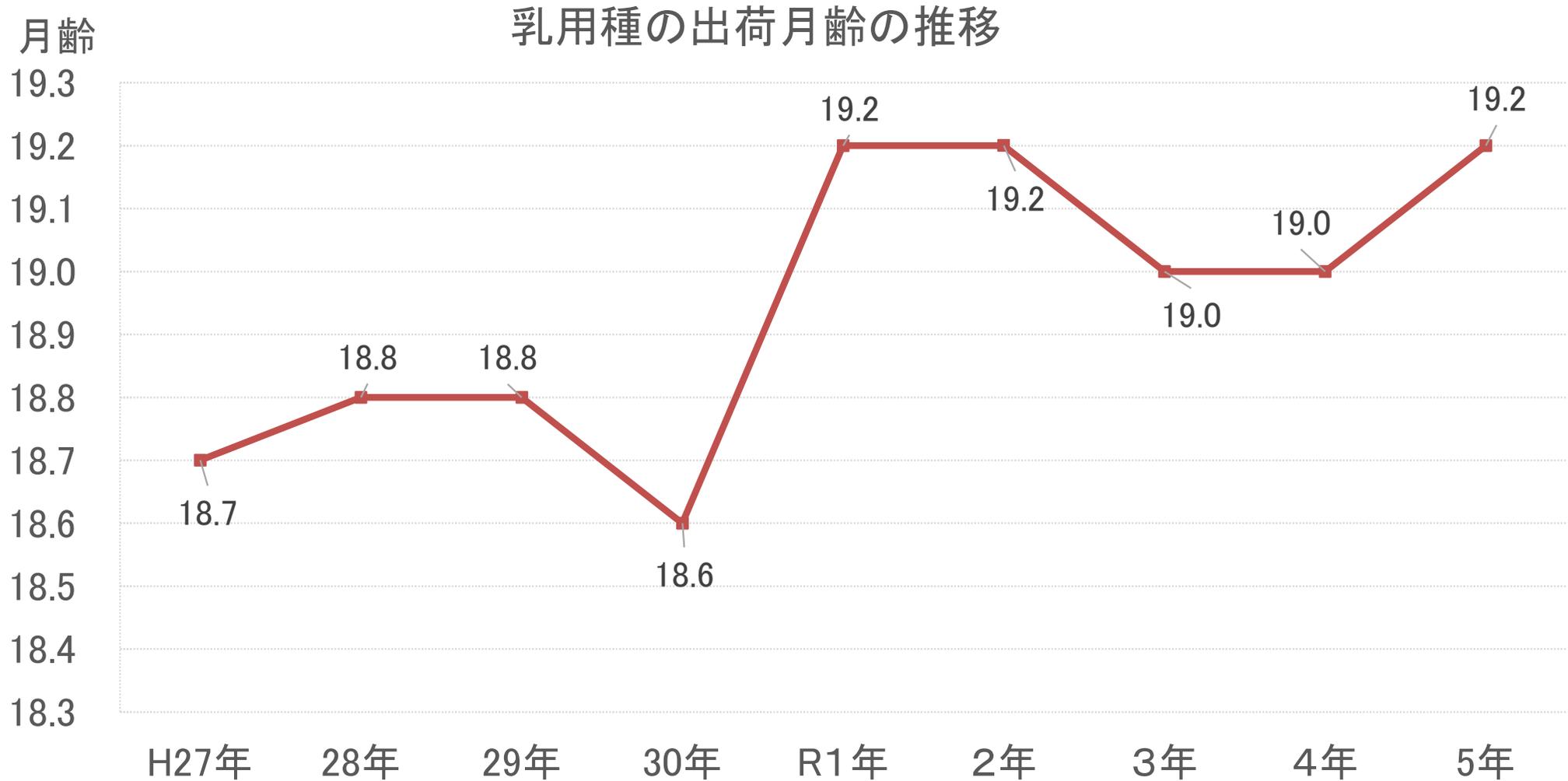


資料: 全国和牛登録協会調べ。

2 肉用牛改良の現状

(2) 乳用種の出荷月齢の推移

○ 乳用種の出荷月齢は、令和元年以降、概ね19か月齢で推移。

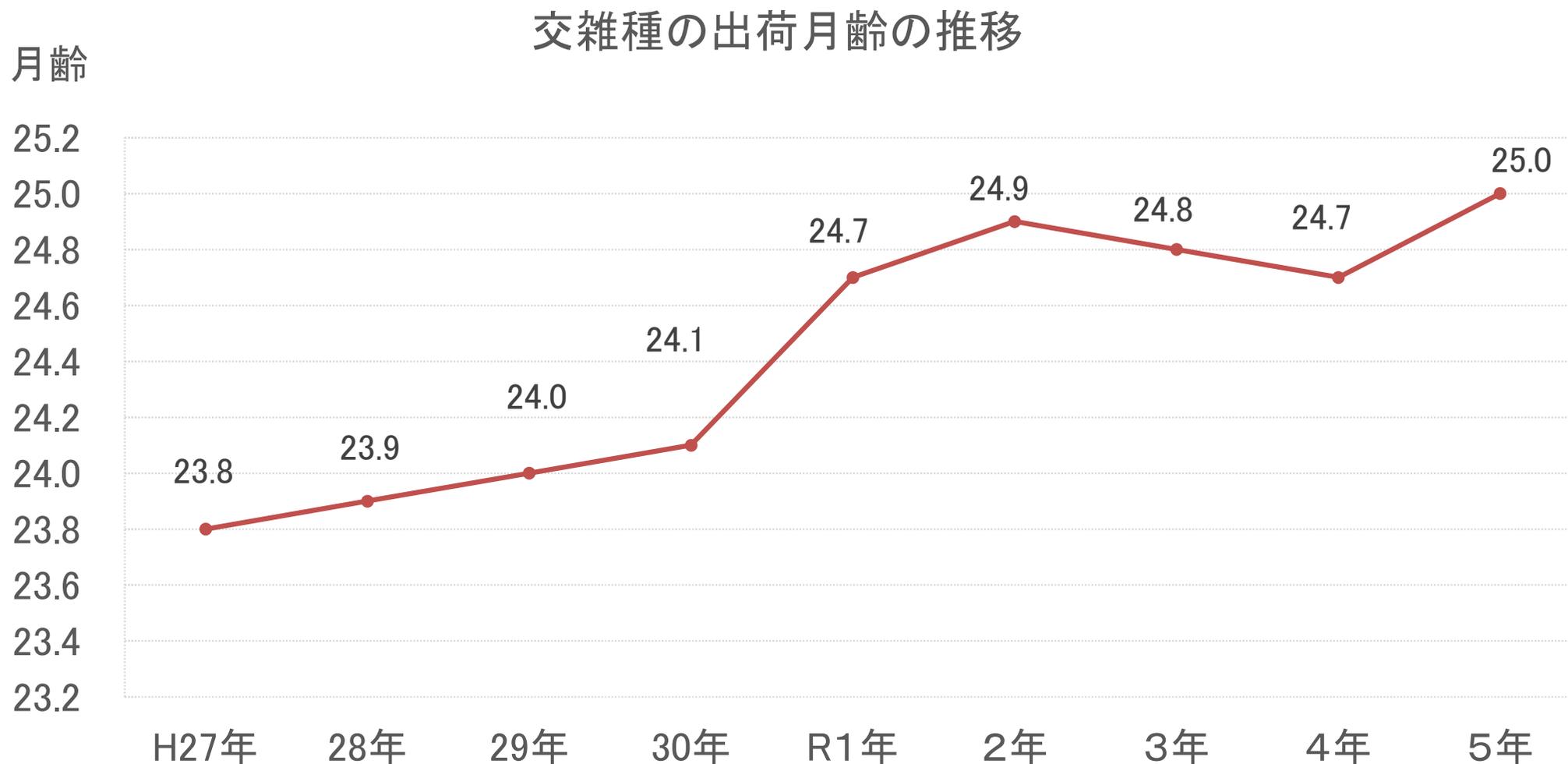


資料:全国和牛登録協会調べ。

2 肉用牛改良の現状

(3) 交雑種の出荷月齢の推移

○ 交雑種の出荷月齢は、平成27年以降徐々に延長し、令和2年以降は概ね25か月齢で推移。

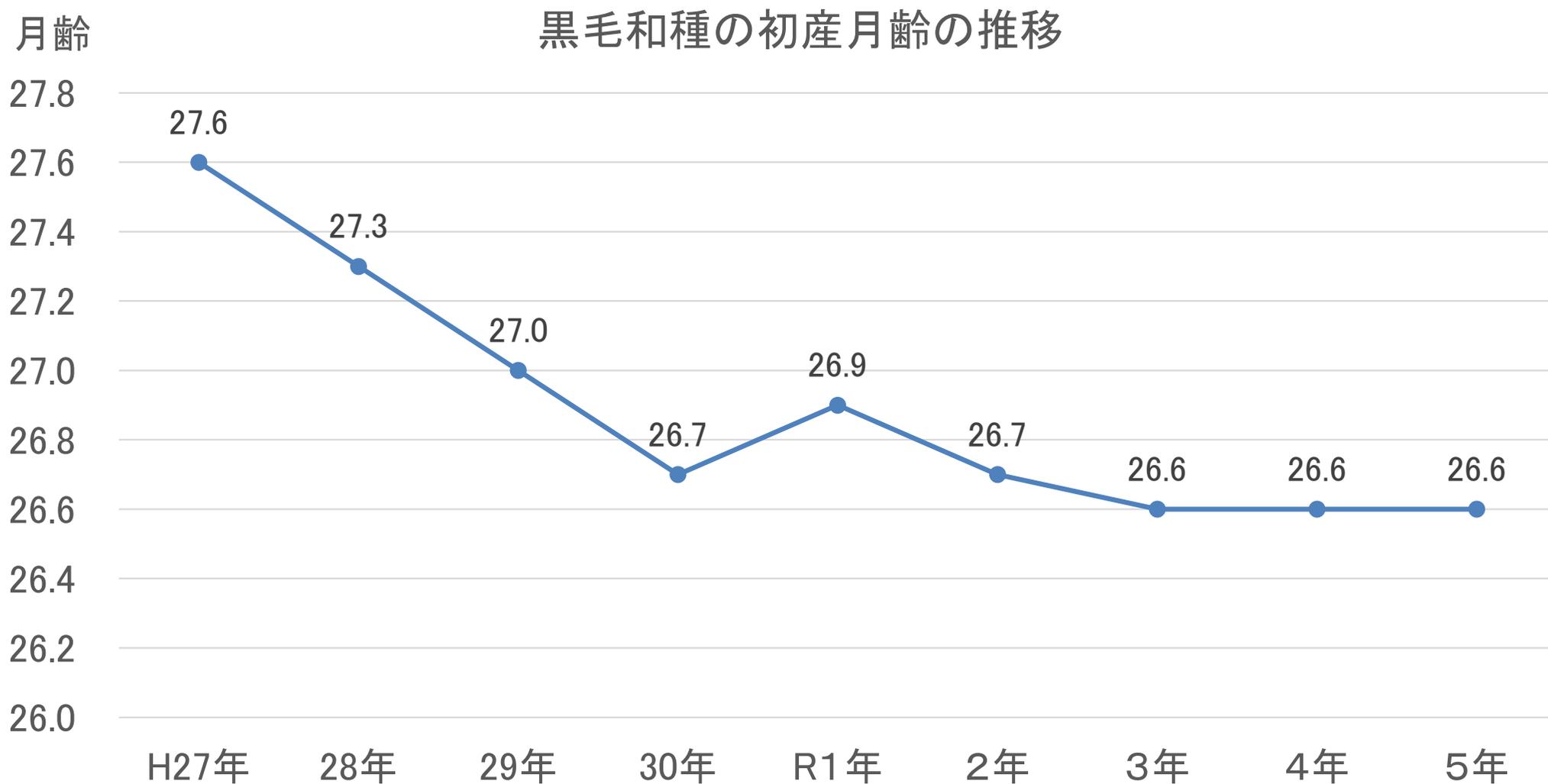


資料：全国和牛登録協会調べ。

2 肉用牛改良の現状

(4) 黒毛和種の初産月齢の推移

○ 黒毛和種の初産月齢は、短縮しており、令和3年以降、26.6か月齢で推移。

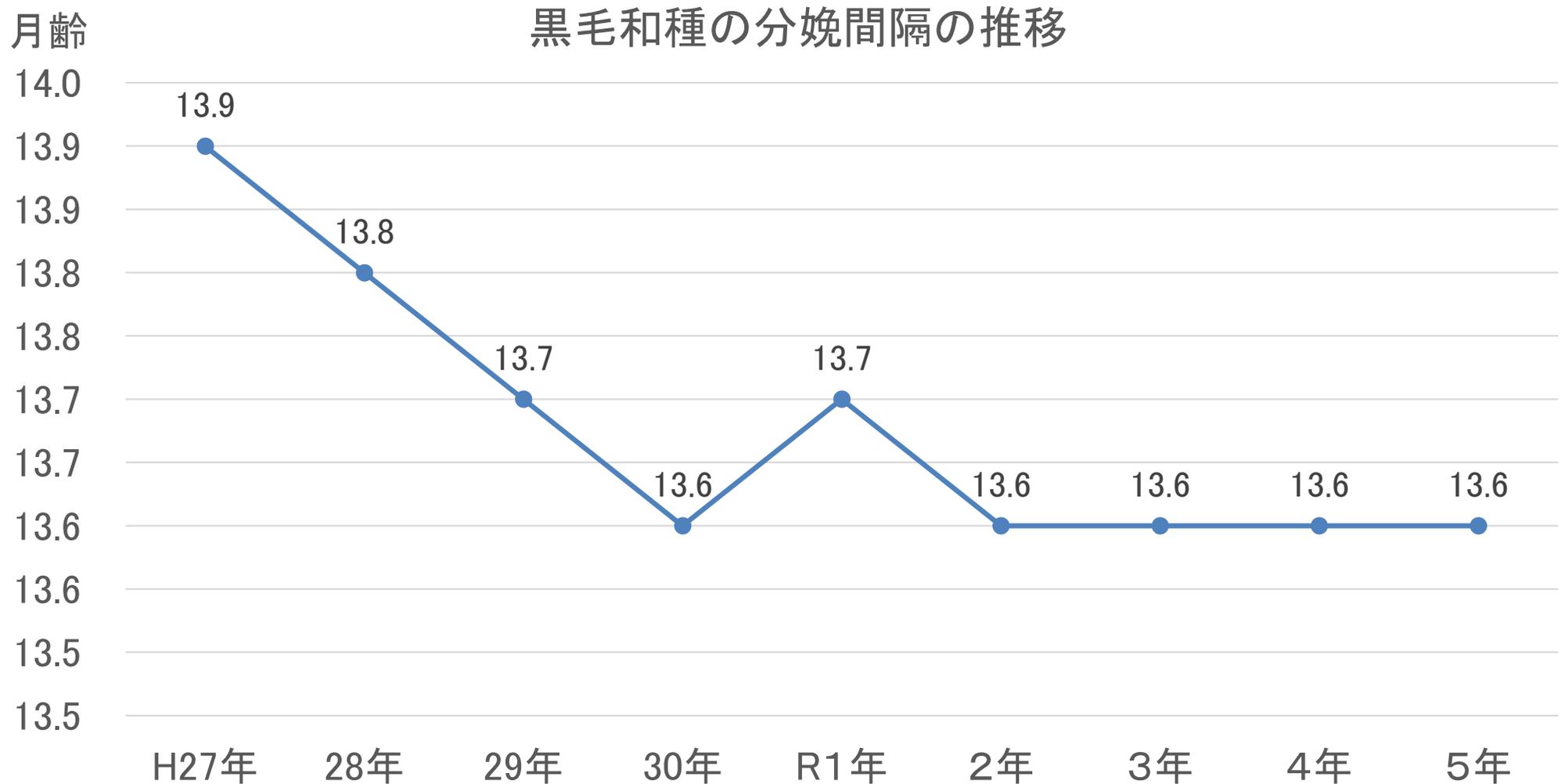


資料:全国和牛登録協会調べ。

2 肉用牛改良の現状

(5) 黒毛和種の方娩間隔の推移

○ 黒毛和種の方娩間隔は短縮しており、令和2年以降、13.6か月齢で推移。



資料: 全国和牛登録協会調べ。